

第5回県立高等学校入学者選抜調査改善委員会

議 事 録

- 1 日 時 平成 28 年 5 月 30 日 (月)
午前 10 時 00 分 ~ 11 時 20 分
- 2 場 所 神奈川県教育委員会 委員会会議室
- 3 出席委員等 田中 統治 種田 保穂 林 巧樹
笹原 和織 松本 一彦 佐藤 均
稲田 義郎 九石 美智穂 土佐 明美
折笠 初雄 (敬称略)

(事務局)

委員会の設置及び運営に関する要綱第7条第1項に委員長が座長となるとありますので、進行を田中委員長にお願いいたします。

委員長 (田中委員)

おはようございます。

それでは、始めさせていただきたいと思います。神奈川県 P T A 協議会会長の笹原委員は、遅れてご出席されます。よろしくお願いいたします。

それでは、議題に入ります前に会議の公開の可否について、本日は「最終とりまとめ」が協議題になっており、最後の協議となります。公開としてよろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。

それでは、協議を公開で行うことといたします。これから「最終とりまとめ」を協議いたしますが、本日で協議を終了して、いただいたご意見については私の方で整理をしてとりまとめ、後日、教育委員会に手交したいと思います。したがって、最後の校正は、私にご一任願えればと考えております。手交する前には皆様に送らせていただきたいと思いますと考えております。

それでは、傍聴希望者及び記者を入室させますので、しばらくお待ちください。

委員長（田中委員）

それでは、協議を行いたいと思います。報道関係の皆様におかれましては、写真撮影等については、ご遠慮願いたいと思いますのでご協力お願いいたします。

前回中間とりまとめについて、協議を行っていただきました。これまでの協議を踏まえまして、本日お手元にあります「最終とりまとめ（案）」を、まとめさせていただきます。当初、この委員会が設置された際に、5月末を目途にとりまとめたいと依頼を受けたわけですが、本日この資料を協議して、その内容を踏まえて「最終とりまとめ」として、速やかに教育委員会に提出したいと考えております。

それでは、私の方から「最終とりまとめ（案）」を、全体を通して説明させていただきます。

まず、「はじめに」としまして、本委員会として、これまで行ってきた調査の結果や学校への聞き取りなどから、採点誤りの原因を分析し、またその上で具体的な再発防止・改善策を示したこと、県教育委員会には、この提言を踏まえて一刻も早く再発防止・改善策を策定した上で着実に実行し、さらに入学者選抜実施後の検証において、誤りがなかったことを明らかにすることで、大きく損なわれた県民の信頼を取り戻してほしいというメッセージを記載しております。

次に目次であります。 は調査改善委員会の取組みの経過です。 は、採点誤りの原因・課題分析であります。そして、 は再発防止・改善策。そして、 としまして、入学者選抜実施後の検証方法等で構成されています。最後に参考資料を付しています。

（以下、「最終とりまとめ（案）」の説明については省略）

少し長くなりましたが、以上「最終とりまとめ（案）」の内容です。この後ろに参考資料として、これまでの調査の結果、または委員会の議事要旨等をまとめて記載し、合わせて「最終とりまとめ」としたいと考えております。それでは、この資料について、協議したいと思います。ご意見があれば伺って、反映できるものは反映して、最後、とりまとめたいと思いますので、よろしく願いいたします。いかがでしょうか。

（松本委員）

12 ページの4番、採点・点検に対する意識の向上、規範意識の向上というところなのですが、前回の会議のときもお話させていただいておりますが、担当する教員の方も含めて自覚、責任の所在を明確にするというのがうたってあるので、もっと自覚するべきだというふうに思っております。提言の頭のところにはある

のですが、具体的な提言の中に、管理職の責任のことしか載っていないので、罰するとかその先生を責めるということではなく、担当する先生方にも自覚を持っていただくという意味で、何らかのコメント、メッセージが入っていた方が、というより入れるべきだなと思いましたが、具体的に言葉を入れていただくようお願いしたいと思います。

(林委員)

それに付随するのですが、お話のとおり、全体では管理職ということになっているのですが、各記述を採点するときに教科のリーダーといいますか、国語なら国語を最後にとりまとめて確認するとか、教科のリーダー的な方というのを置かないと、教科ごとにどういうふうに2系統でやって、これがどう進んでいるかマネジメントできないのではないかと思いますので、そういう方を置くことをマニュアル上に設置するなどした方がよろしいのではないかと思います。

委員長(田中委員)

はい、ありがとうございます。

(林委員)

ついでに一つ。その上の3のところちょっと気になる表現なのですが、同じ12ページの3(1)の「また」以降なのですが、受検者に求める学力を十分に考慮しながら採点がしやすい問題となるように、この採点がしやすいというのが、せっかく思考力や表現力を問おうとしているのに、ここでまた採点しやすいことばかり考えてしまって、本来の趣旨を損なってしまうと何の意味もないのかなと思うので、趣旨を損なうことのないようなど、13ページの後ろにあるように、採点が複雑にならないようにするとか、採点がしやすいという曖昧さだけはちょっと気になるところです。

委員長(田中委員)

はい、ありがとうございます。採点が複雑にならないような問題となるようにする。

(林委員)

理科だと誤字でマイナス1点だったのが、社会だったらマイナス2点ということと自体に齟齬^{そこ}があるのかなと。

委員長（田中委員）

採点のミスを誘発しているということで、教科によっては誤字を重く見ないというところもあります。

（種田委員）

細かいところで、受検者の「検」はこの字なのでしょうか。入学試験なんかの受験は点検の「検」ではなく、うまへの「験」ですよね。これでよろしいのですか。

（事務局）

学力検査を受けていただく人という意味で、この「検」を使っております。これはもう相当歴史の長い使い方でございます。

（種田委員）

では、これは間違いではないということですね。

（事務局）

はい、そうですね。

委員長（田中委員）

一般の方からすると、誤字ではないかと言われるかもしれないので、そこら辺がもし説明が必要ならば説明していただきたいと思います。

（佐藤委員）

私立はうまへの受験です。

委員長（田中委員）

正式には入学者選抜学力検査と呼んでいると思います。公立だけということで、記者の方よろしくお願ひしたいと思います。表記の仕方ですね。他にはいかがでしょうか。

（九石委員）

6ページの上から2つ目のマルですが、3行目を見ますと、逐一正答を確認することなく、記憶に頼ってということですので、国語なら国語の全ての正答を記憶してというふうに受け取られる方もいらっしゃるのかなと思われませんが、実態としましては、例えば問1なら問1の5つくらいの正答を記憶してという実態が

ございますので、例えばですね、この「記憶に頼って」という文面を削除して、その代わりに、「一定のまとまりごとに正答を記憶して」というふうに修正をしていただきますと、より具体的に正しく伝わるのかなと思います。

委員長（田中委員）

今の点はよろしいでしょうか。では、今ご提案のあったように、「一定のまとまりごとに正答を記憶して」という表現に変えるということで。

（九石委員）

あと2点ございますがよろしいでしょうか。7ページでございます。7ページの2番、一番下のマルです。特に受検者の多い学校のスケジュールに合わせて、という部分ですが、受検者そのものが多い学校と併せまして、検査科目が多い学校という視点も一つございますので、提案といたしまして、特に受検者の多い学校や検査科目が多い学校のスケジュールに合わせてという部分を加えていただくことはいかがかなというふうに思います。

もう1点お願いします。同じく7ページの2番の上から2つ目のマルでございます。この時期に今、さまざまな在校生にかかる指導が並行して行われるという実態があり、その次の文です。合格発表までのスケジュール管理が綿密とは言えなかった可能性があるという部分ですが、ここは、実態としましては、入選の作業マニュアルに全て、何日の何時から何時までこの作業をどこで誰が行うというような形で全ての学校で入選マニュアルを作成しています。ですので、スケジュール管理が綿密ではなかったというよりも、この時期に在校生に対しての指導が様々あり、そして入試に対しての業務が様々あり、それを同時並行的に複層的に行わなければいけないというところについてもう少し何か工夫ができないのかという意味合いで私が実態をお話した部分でもございますので、提案といたしましては、「合格発表までにスケジュール管理が綿密とは言えなかった可能性がある」という文章に代えて、在校生の授業と並行して採点業務を行うことはできないこととなっている。この間の業務スケジュールと分担を明確にしてというのはそのまま最後まで同じでございます。この間の業務スケジュールと分担という形で加筆をしていただきますと、在校生に対する指導と検査に対する業務とその前後の業務スケジュール等の整理が必要だというような趣旨が伝わるのかなというふうに思いますがいかがでしょうか。

委員長（田中委員）

頭からその箇所を読んでいただければと思います。

(九石委員)

では頭から読みます。「採点・点検の時期は、大学受験や進級にかかわる生徒への対応など、他の業務が並行して行われている実態があり、在校生の授業と並行して採点業務を行うことはできないこととなっている。この間の業務スケジュールと分担を明確にしておかないと、誤りを誘発する原因となる。」ということです。よろしくご審議ください。

委員長(田中委員)

「並行して行われているという実態があり」でよろしいですか。並行して行っはならないという理解になりますでしょうか。

(折笠委員)

普段学校でやる場合に授業と並行してできないのは採点だと思うのですね。それ以外は入選の準備とかマニュアルの日程のスケジュール管理などについては、授業がありながら入選委員がやっているの、採点の時にはいろいろな業務ができないということでもいいですよ。

(九石委員)

はい、そのとおりでございます。読ませていただいた文面として、在校生の授業と並行して採点業務を行うことはできないという、この業務が採点日として設定されている、今回でいえば1日プラスアルファだったのですが、その日に限定して採点をするしかない業務スケジュールであるということの実態を説明している文章ということになると思うのです。ですから2日で採点が終わらなくても、その後生徒が登校してきて在校生の授業が始まってしまうと、制度上と申しますか、それと並行して採点を行うということができない状況ですので、逆に言えば2日間なり、現在で言えば1日プラスアルファの中でとにかく何が何でも採点を終わらせる必要があるという実態がありますということの説明になるかなと思うのですが。

(事務局)

事務局の方から発言させていただいていいですか。確かに、採点の時期に在校生を含めて様々な対応があります。ここで記載させていただいているのは、その中でスケジュール管理が綿密にできていない部分があって、採点誤りを誘発する原因になっているということが、原因分析にこれまであったからだと思います。したがって、九石委員から、今お話のあった、授業と並行して行うことはできないこととなっているということを追記した上で、綿密とはいえなかった可能性があ

るという文言は、原因分析としては残しておいた方がよいのでは、という思いはあります。

委員長（田中委員）

入選マニュアルの中で、スケジュールは記載されて、かなり明確であるにもかかわらず、そういう業務を同時並行でやらざるを得ない実態があるという理解でよろしいでしょうか。そうすると、そういうことを含めたスケジュール管理ということが必要になってくる。ここはまた調整させていただきますが、納得いただけるように文言については反映させる形で修正したいと思います。

（土佐委員）

土佐です。よろしく申し上げます。5ページと6ページのマル起こしのところに、2度思い込みがあり、6ページの2行にも思い込みがありという言葉がでてきます。国語的にどうなのかと思うのですが、元々、思い込みが心の中にあっただけではなくて、思い込みを生じてしまったのだと思います。細かいところですが、全ての教員に思い込みがあって採点しているのではなく、繰り返しやっていく中で、思い込みが生じてしまい、点検が機能しなかったという表現の方が私は適切な表現だと思います。細かいところなので、ご採用いただかなくても結構ですが、いかがでしょうか。

委員長（田中委員）

あらかじめ思い込みがあったのではなくて、作業を進めていく中で思い込みが生じてきたという表現ですが。

では、大きなところでは、マークシート方式のところについていかがでしょうか。

（土佐委員）

続いてよろしいでしょうか。9ページのところ、再発防止・改善策のところですが、この調査委員会の流れとしては、記述は残し、記号の問題はマークシートというような結論に、今のところなっているかと思うのですが、そのことにつきまして、まとめていただいておりますように、現中学3年生のことを考えますと、ここで大きく記述の問題を無くすとか、全てをマークシートにするとか、あまり大きな改変は望ましくないことは私も承知しております。ただ、今後の話ですが、ここで発言することは妥当ではないかもしれませんが、記述問題が導入されたことの趣旨として、平成25年度の入学者選抜の改善のところで、思考力・判断力・表現力を問うことが求められ、記述問題を導入したとございます。ただ、記述問

題の性質もいろいろございます。そのあとに表現力を測る手立てとして強調されておりますが、なかなかここは内容によって難しく、これからも整理をしていかなければならないと思うのですが、我々が現場で指導していく中で、表現力というと、やはりプレゼンテーション能力とか、資料を要約して人に伝える能力とか、そういったところを表現力というように捉えているのですが、この学力検査の中で、思考力・判断力を問う問題は比較的作りやすいと思うのですが、表現力を問うとなると、難しい問題であると私は考えております。つきましては、今後のこととして、思考力・判断力・表現力を問うという設問に対する研究と日程的なことも含めまして、面接や特色検査なども大きな見直しが必要な時期に入っているのかなと思いますので、思考力・判断力・表現力について考える、もう一つは日程的なゆとりを持たせることも含めて、面接、特色検査のあり方を考えるという制度上の見直しも、今後必要になってくるのではないかと思います。このまとめの中に記載されなくても結構ですが、これから神奈川県教育委員会として考えていかななくてはならないことかなと思っております。少しまとまりが無くなってしまいましたけれども、以上でございます。

委員長（田中委員）

記述式では書く力を見るという意味での表現にしたところもあるわけですが、それは面接でも測られているものでしょうか。

（事務局）

実際に面接では、意欲を測るものとしておりまして、面接の中で具体的に表現力を測って、それを点数化しているということはしておりません。

委員長（田中委員）

ここは、とりたてて表現力だけを取り上げているようにも思えるので、それらを測る手立てとしてというような、広いニュアンスで取られて、導入の趣旨を損なうことはないですか。平成 25 年度の。

（事務局）

記述式問題は、表現力だけを問う問題ではなくて、そこに至るまでの思考・判断力も当然聞いているわけですので、等というかたちでも、広く、そこは表現力だけではないということを確認させていただきます。

委員長（田中委員）

後半のことに関しては、この委員会のカバーできる範囲ではありませんので、今後考えていただくという、ちょうど見直しの時期とも重なるということで、この委員会は調査をし、改善提案を行うというところのまとめの役割をとっております。このマークシート方式の導入というのが、たぶん大きなインパクトを持つかもしれないと思いますが、これを行うにしても少し準備というか、試験的なものも必要ではないかと思うわけですが、校長先生からのご意見でも、多くの中学生はマークシートに比較的慣れているというお話でした。不利益を被らないような配慮も必要になってきますので、大学入試でも時間を長くしたり、いろいろな補助を入れたりとかということで対応はしておりますけれども、こうしたことが必要であるとは思いますが。

（佐藤委員）

改善の方策とは直接は関係ないのですが、中学校校長会では学力検査問題について 409 校、各教科からその検討結果を吸い上げて教育委員会にその内容の報告をするという作業を毎年行っていますけれども、今回の入試問題そのものにつきましては、教科による難易度の差も小さく、内容もかなりいい評価でした。ですから、マークシート方式が導入されて、形として変わるようなことになったとしても、その検討結果とか、今、作問されている趣旨とか、それらについては是非継続して行っていただきたいと思えます。

マークシートにつきましては、校長会の方にも問合せをしましたが、ある程度、練習は各校でしているようですね。全国学力等で実際に使ったり、あるいは学校評価で使ったりということをやっていますけれども、それにプラスして、ある程度、練習はやっている。中学校においても、その形になれば必要に応じてやっていくことになろうかと思えます。

（笹原委員）

この間、代理の出席者を通して保護者の立場から、記述・表現の問題は残して欲しいと要望して参りました。やはり一つの文章を組み上げる過程は、今の子ども達に不足しているものであり、採点上手間ではあろうとは思いますが、残して欲しいと考えています。採点ミスを防ぐ方法として、代わりにマークシート方式の導入が提言されたわけですが、保護者の中には様々な意見がありますが、最終的にその記述・表現の問題の採点にかかるヒューマンエラーを認めた上で改善するべきであろうと考えております。

ここで改善策を提言なさるマークシートの導入にあたっては、当然マークシート自体の記述上の問題、採点自体にも機械のハードやそれを読み取っていくソフ

ト上のエラーというのは、当然生じてくると一般的に指摘されていますけれども、そういった点に対する対応というのを県の方から入れていただく方がよいと思います。

そして3点目、やはりこれから今後どうしていくのかということが重要でありますけれども、その中で「規範意識の徹底」、あるいは「規範意識」という形が強調されていますけれども、「規範意識」というのは、端的に詰めていけば、「ルールになっているのだから守りなさい」ということですよね。しかしながら、特に保護者の立場から言わせていただければ、採点エラーがあるということは、保護者にとっては直接的に経済的な損失があると同時に、子ども達にとっては精神的な、あるいは子どもの成長過程にとっても大きな問題が、実際にもう起こってしまった問題だと思うわけです。つまり採点ミスに欠けているのはルールだから守りなさいということではなくて、そういったものに対する当事者意識が、果たして採点をなさっている、あるいは管理をなさっている先生方にきちんと共有されていたのかどうかだと思います。

ルールだから守りなさいということの強調というのは、ルールだから守れば良いという意識に繋がりやすいわけで、そもそもルール化されるにあたってはそのルールの、ルールが制定されるに至る背景やあるいは理由や根拠、そして目的というものがあるわけで、やはりそういったものをきちんと理解していただく「当事者意識」というものを先生方全員、管理者の方々に持っていただきたいと申し上げたいと思います。

委員長（田中委員）

8ページ5のところの「規範意識」は、どちらかという誤廃棄の問題を中心に書かれているようなところがあります。ご指摘いただいたようなところは、むしろ4のところの最後のあたりのことと関連するかなと思いますので、お持ちだろうとは思いますが、自分の子どもであればという意味での重大性というか、そういうのが業務として考えていると気は抜けてしまう。あとソフト上のエラーのことについても、これは改善の検証という前の話になってきますので、このあたりもまたお考えいただければと思います。

（林委員）

今お話のあったこと最後に一つだけ、今8ページの委員長のお話にあったとおり、合否の判定の分岐点の採点・点検とここにはあるのですが、11ページの方の（2）になると「合否判定分岐点付近の採点・点検評価の後、重層的な点検の実施を検討することが望ましい」という、表現が少し弱まってきている。同じことをおっしゃっているのですが、今回目的は、採点のミスをなくすこと以上に、選

抜でミスをなくすということなので、1人でも本来合格だった子が、不合格になったことが、ちょっと大きな問題だと思imasuので、ここは望ましいとかいう表現は、避けていただきたいなと思うのですけれども。

委員長（田中委員）

今ご指摘のあったのは、8ページのどちらのところですか。

（林委員）

8ページは、必要があると言い切っている。

委員長（田中委員）

8ページの方は。

（佐藤委員）

答案の交換の方に書かれています。他校の方ですね。

委員長（田中委員）

可能かどうかという問題もあったので、方向性として望ましいというような表現になっておりますけれども、必要があるというふうにすると必ずやらなければというふうに受け止められる。

（林委員）

交換は別にいいのですが、合否の分岐点の人については、確実に再度点検をするとか、ここを取ってしまって、こちらだけ残しておけばよいのではないのでしょうか。8ページを生かす、としていただければいいのではないかと思います。

委員長（田中委員）

合否の判定のところの表現、他にももう一つあったような気がいたします。

（林委員）

委員長、セーフティネットうんぬんで、少なくとも入学する前までに、というようなことを口頭ではおっしゃっていたのですが。

委員長（田中委員）

もう一度11ページの上の(2)のところの表現に、その他検討すべき採点・点検方法として、他の学校の受検者の答案を学校間で交換して、再点検すること。

合否判定の分岐点付近の受検者に対する再点検の強化。ここはちょっと一緒になっているので、望ましいが紛らわしくなっている。ちょっと文章を整理して、分岐点付近の場合は、これは必ず、他校がやるのかどうか別にしましても、セーフティネットとして、念には念を入れてという意味での表現となっています。

(種田委員)

9ページの再発防止・改善策というところの最初の文章。「これまでも、平成12年度入学者選抜において採点誤りを起こし、それ以来、再発防止に取り組んできたにもかかわらず」という文章があるのですけれども、前回の12年度の再発防止の取り組み、その時点に点検して、どういう再発防止策をやってきたのかということと、今回は前回とどう違うのか。最後の方、4行目、3行目からですね、「思い切った再発防止策、改善策を打ち出す必要がある」というふうになっていますけれども、思い切ったことをやらないとできないのか。非常にこの文章を見ると、前回は何か思い切ったことをやられていないのか。再発防止の取り組みというのが、甘かったのかというふうな印象を受けるのですけれども、その点はどのようなのですか。

(事務局)

平成12年度の時までには、採点・点検の方法も各学校でばらばらの形で、各学校に任されていた部分がありましたので、このときに今の基本マニュアルの原型となるものを県教育委員会として作成をして、そして、それで統一的に各学校にやってもらったというのが、このときの再発防止策でございました。ただ、これで少しずつ改善もしながら、各学校に徹底してまいりましたので、教育委員会としては、これできちんとできているという認識でおったのですが、今回のことを受けまして、やはりご指摘のとおり、マニュアルやあるいはマニュアル以外で答案用紙のレイアウト等を幅広くご指摘をいただいておりますので、この基本マニュアルだけを変えるということだけではなくて、たとえば2系統で採点をするといった、これまでもそこは全然やってきていなかった部分ですので、そういったことも含めて、大きく変える部分もあるのかなというところだと思います。ですので、事務局の捉えとしては、そういったことも含めて今までやってきた、それについては、いろいろご指摘、課題があるといういただいているということなので、そこも含めて幅広く、たとえばマークシートの導入ということも含めて、「思い切った」という表現にされているのかなというふうに捉えています。

(事務局)

もう一点補足させていただきますけれども、平成12年度に採点誤りがあって、今課長が申し上げたとおり、今回の基本マニュアルの原型ができています。それ

で、採点・点検を複数回やることで、防止をしていこうという形で始まったという経緯がございます。実はこのあと平成 16 年度にも採点誤りではないのですが、やはり入学者選抜の中で、これは調査書の誤りですけれども、やはり神奈川県で誤りがあったということで、今回そういう意味では 3 回目というような状況であり、我々としては危機感を持って臨まなければいけない、そういう中で今回皆さんからご意見をいただいているという状況でございます。

委員長（田中委員）

よろしいでしょうか。基本マニュアルを作成したということが主な再発防止策になっていたのですけれども、その基本マニュアルが点検機能としてうまく働いているかどうかという検証が少し弱かったというところだと思います。

「思い切った」という表現なのですが、「抜本的な」なども考えられますが。

（林委員）

蛇足ですけど、他の県に聞きますと、神奈川県よりももっといろいろ起きているところもあるので、神奈川県は結構しっかりされている方だということがわかりました。

この、「思い切った」という表現をしているのは、このマークシートを導入すべきという提案に結びつけているような印象を受けるのですけれども、別にそういう「思い切った」というやり方ではなくても、可能ならばいいのではないかと、こういう「思い切った」取組ではないといけないのだという表現はどうなのかなというふうに思いました。

委員長（田中委員）

ゼロに、限りなくゼロに近づけるというか、今回はもう絶対にあってはならないというような、少し腹をくくった表現として「思い切った」という表現を、発言の中にもあったかもしれないですけれども、そういう踏み込んだ表現にさせていただいたところがあります。「抜本的な」というふうな表現でも良いかと思いますが、リリースしますと明日あたりはいろんな反応が出てくるとは思いますけれども、これはこの委員会で調査した結果、ケアレスミスとしてゼロにすることは、記号の選択の問題についてはできるだけこれまでの実績のあるマークシート方式への移行によって、何とかミスのない形にしていく。しかもそれで終わりではなくて、ずっと点検と改善を重ねていってもらおうと、前回大きな教訓としては基本マニュアルを作成してそれで OK というような、ちょっと組織としてはよく陥りがちなものに入っていった、それが学校でも少しゆるみにつながったというふうに思います。ですので、マークシートに切り替えればそれでいいということでは

ございませんので、記述式の問題については、これはもっと採点体制をより良いものにして、ぜひ全国のモデルになるようなものを作っていただきたいというふうに思います。

他にはいかがでしょうか。

(松本委員)

この場で議論する内容なのかどうかということもあるんですが、答案用紙の廃棄の問題なのですけれども、3校で事前に廃棄されてしまったというのがあって、それだけはここでお話があったんですけど、1年の保存というのがそれでいいのかどうかという話は、ここで決めることでもないし、ここで方向性を出すものでもないとは思いますが、こういうこともあったので、これをまた1年だっというのを繰り返して、スペースの問題とかいろいろあると思うんですが、これを繰り返すと、見つからないうちに捨ててしまえ、のような印象を与えてしまうので、これも教育委員会の方で検討する材料としていただけたらどうかと、いろいろな問題があると思うのですね。他の文書との絡みもありますし、保存スペースの問題もあると思いますので、そのあたりを検討していただきたいなと思ってご意見をさせていただきました。

委員長(田中委員)

では8ページの原因として考えられるところの、本来1年間保存すべき文書という表現がございますけれども、これは規定上そうなっているということでありましてけれども、1年で良いのかどうかですね、大学の場合など卒業するまで何があるかわからないから答案は取っておくようにという状況になっています。少しそのへんのところの特殊性も考慮していただければというふうに思います。

開示請求の問題はいかがでしょうか、よろしいでしょうか。表現として。

事案の発覚が開示請求があって発覚したという、まあ組織としては大変大きな誤りにつながっているという、自己点検で出てきたというならまだしもですね、受検生からの問い合わせということが大きな問題だと思います。できるだけこれを自分の答案に関して請求を早くしたいという受検生の場合には、もう受検する前からそれについて手を挙げておくとかというようなシステムの導入も考えられて良いかなというふうに思います。

他にはいかがでしょうか。

2系統の採点方式、それから2人1組での読み上げ方式というようなかなり踏み込んだ提案もいたしましたけれども、そのへんはよろしいでしょうか。

はい、最後の検証方法のところ、これも非常に大事だと思いますので、もう一度お読みいただきたいと思います。14ページのところ、再発防止・改善策という

のは、これはある意味エンドレスなところもありますので、マークシートで終わりというものでもありませんので、この体制をサイクルとして作っていただくと、そして信頼回復のみならず、安心して受検できるというような体制を構築していくための策として提案しております。これについてはこれでよろしいでしょうか。

(松本委員)

あの、マークシートではない場合のことになると思うのですが、結局、時間がかかるとか、人手が足りないという問題がチェックするのに多いと、大きな要因だと思うので、例えば、費用がかかると思うのですが、外部のそういう会社に、そういう機関もあると思うので、そういうところに完全に委託に出してしまうとか、そういうのも一つの方法としてあると思うのですが、そういうのはいかなものなんでしょうか。全く素人的な発想なのかもしれないのですが、それか、アルバイト、質もあると思うのですが、人を雇うのはどうなのかと思うのですが。

委員長(田中委員)

それは林委員からコメントいただけると。

(林委員)

それはかえってマークシートよりも、よほど費用はかかると思うのですが、危険ですね。

(松本委員)

そうなのですか。

(林委員)

はい。まず答案用紙というのを外部者に見せることは基本的にやってはいけないことなので、それはまず記号問題であってもやってはいけないということと、はっきり言えば機械よりも人件費の方がよっぽど高いので、それはちょっと現実的にはありえないかなと思いますね。

(松本委員)

わかりました。

(林委員)

むしろ、マークシートというのは長い目で見れば、機械を入れることは人件費の削減にもつながりますし、我々大学人からすると結果的にコストダウンにつな

がっていっているということが大きいかなと思います。

(松本委員)

費用は当然そうなのですが、本当に正しくやるという、正しい結果を出すということだと一つ方法としてはどうなのかなということで、はい、わかりました。

(林委員)

マークシートの機械も、もしこれ逆に、マークシート導入が決定されたことで、マークシートの読み取り機も、正直言って松竹梅ありますから、すごくきれいに読み取るのもあれば、読み取り間違えるのもあるので、できればというか、間違いなくいいものを入れないと、大学入試センター試験というのをご存知だと思いますけど、日本で最高のすごい速さの素晴らしい機械なんですけれども、まあそこまで入れなくても、それに近いものじゃないと、読み取り間違いがあったら、ヒューマンエラーよりもっと厄介な話になるかなというふうに思います。余談ですけど。

委員長(田中委員)

ありがとうございます。もう少しそのあたりの予算は手当していただかないといけないと思います。

その他はよろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。

最後の方の参考資料のところ、これまで5回にわたって大変短期間に集中して熱心にご審議いただいたおかげで、大変この「最終とりまとめ」は、簡潔にまとめることができました。あとでも申しますが、お礼を申し上げたいと思います。

では、本日の協議を終了させていただいて、今日の議論を盛り込んで最終まとめとしたいと思いますので、先ほどございましたが、最後のとりまとめは私に一任させていただいてよろしいでしょうか。ありがとうございます。では責任を持ってとりまとめ、私の方で教育委員会に提出したいと思います。

それではこれで終了させていただきます。どうもありがとうございました。